

# 事業評価個票（事業実施：令和元年度）

事業名	グローバル産業人材育成事業費					
部局名	教育庁					
担当課名	高校教育課					
事業開始年度	令和元年度	事業終了(予定)年度	令和3年度			
短期APの位置付け	テーマ	テーマ1 郷土愛を育み未来を築く子育て支援・多彩に活躍する人づくり				
	施策	施策2 子どもの多様な力を引き出す教育の推進				
	目標指標	—				
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本県の高校生が海外の産業の現場を学び、現地の高校生との国際交流を通して海外との繋がりを築くことで、次代を担う国際競争力のある中核的人材を育成する。</li> <li>・平成28年5月に本県と高雄市が締結した友好協力覚書を踏まえ、高校生同士の交流促進による友好関係の深化を図る。</li> </ul>					
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業科設置高等学校5校から選抜された生徒による交流学習団（生徒10名+引率教員3名）が訪台し、現地高校生との交流、農業施設や市場の視察、農業体験学習等を実施する。</li> <li>・帰国後は報告書を作成し、成果発表を行い、農業のグローバル化に資する人材育成を目指す。</li> </ul>					
	<p>【本県と台湾について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本県は、高雄市・宜蘭県・台中市と友好協力覚書を締結し、山形市も台南市と協定を締結するなど、本県と台湾は非常に友好な関係を築いている。</li> <li>・平成30年5月には、山形空港～高雄空港の相互チャーター便が就航するなど、更なる交流拡大を目指している。</li> <li>・台湾は、平成29年3月には、「国別輸出アクションプランー台湾ー」が策定されるなど、本県の輸出先として重要な地域として位置付けられている。</li> <li>・台湾では、ICTや人工知能を活用したスマート農業などの先進的な技術の導入を推進している。スマート農業分野の国際会議も盛んに行われており、IoTの活用は教育分野においても積極的に導入されている。</li> </ul>					
	<p>活動指標及び成果指標設定の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動指標としては、各校2名の複数名での参加を目標とした。成果指標は、研修報告を聴講した各校農業高校生が農業のグローバル化を認識し、関心を持つことで今後の取組みに繋がるということから、生徒の関心度を指標とした。</li> </ul>					
	<p>事業所管部局による評価・検証（令和元年度）</p>					
項目		評価	評価に関する説明			
必要性	事業の目的が県民や社会のニーズを的確に反映し、成果目標の明確な達成手段として位置づけられ、優先度の高い事業となっているか。 また、市町村・民間等に委ねることができない事業なのか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本県の「県産農産物等輸出拡大プロジェクト」では、アジア地域を中心とした農産物の輸出拡大を目指している。そのためには国際感覚を身に付け、次代を担う農業人材を育成する必要がある。本事業は本県農業の発展に向けて重要な取組みと言える。</li> </ul>			
	支出先の選定や受益者との負担関係は妥当であるか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台湾は本県農産物の輸出先として重要な国に位置付けられており、ICTや人工知能を活用したスマート農業などの先進的な技術の導入も進んでいることから、交流先として最適である。また、高校生の交流活動や農業体験については現地高校が担っており、適切な負担関係となっている。</li> </ul>			
事業の効率性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 また、類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業科設置高校5校(上山明新館、村山産業、新庄神室産業、置賜農業、庄内農業)より各校代表2名の生徒が本事業に参加し、得た知識や感じ取ったことを各校で研修報告を行うことにより、少ない参加人数で多くの高校生へ成果の共有を図ることができた。（10名の参加者に対し、研修報告聴講者は合計272名）</li> </ul>			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。 また、整備された施設や成果物などは十分に活用されているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校2名の複数名の参加により、適切な成果発表ができ、事業参加者はもとより、多くの高校生が関心を持つことができた。</li> </ul>			
事業の有効性(達成度)	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業のグローバル化に関心を持つ生徒が増加したことなどから、各校の農業学習において、農作物の国際的な流通に欠かせない「農業生産工程管理(GAP)」認証の取得を目指した取組みを行っている学校も出てきており、この事業が各校の発展的な農業学習に繋がっている。（今年度6月に花き栽培における国際認証MPSを取得した高校も出てきている。）</li> </ul>			
	課題・改善点		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の成果を波及させるため、各校毎に研修成果報告会を行った。参加者272名のアンケートでは「世界的な農産物の流通の仕組みや市場動向、農産物の輸出入に関わる諸問題に関心はありますか」の問いに対し、関心があると答えた生徒の割合は 事業前（出発前）が19.1%だったのに対し、事業後（報告会後）は44.8%となり、大幅な増加が見られた。</li> <li>・更に今後は研修報告の方法や各校の農業生産工程管理(GAP)への取組みなど発展的な活動を通し、本県農業のグローバル化に資する人材育成に努めていきたい。</li> </ul>			
財源内訳(単位:千円)	国庫支出金		514			
	県債					
	その他特定財源					
	一般財源	3,779	3,097			
	計	3,779	3,611	—	—	
当初予算額(単位:千円)	費目(予算見積書グループ名)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	グローバル農業人材育成事業費	3,779	3,611			
	計	3,779	3,611	—	—	—

## 目 的

- 本県の高校生が海外の産業の現場を学び、現地の高校生との国際交流を通して海外との繋がりを築くことで、次代を担う国際競争力のある中核的人材を育成する。
- 平成28年5月に本県と高雄市が締結した友好協力覚書を踏まえ、高校生同士の交流促進による友好関係の深化を図る。



台南大学付属高級中学生が置賜農業高校に来校した時の農業実習体験交流

## 事業内容

- 農業科設置高校の生徒による台湾との交流学习  
3,779千円
  - ・ 農業科設置高校（上山明新館・村山産業・新庄神室産業・置賜農業・庄内農業）から選抜された生徒（各校2名）による交流学习団が訪台し、高雄市の高校生との交流、農業施設や市場の視察、農業体験学習等を実施する。
  - ・ 帰国後は報告書を作成し、成果発表を行う。（「農林業・食料・環境を考える山形県民シンポジウム」等での発表を想定）

### 【本県と台湾について】

- ・ 台湾は、本県農産物の輸出先として重要な地域であり、高雄市のほか、宜蘭県・台中市とも覚書を締結し、更なる交流拡大を目指している。（台南市は山形市と協定を締結）
- ・ また、台湾はICTや人工知能を活用したスマート農業などの先進的な技術の導入を推進している。